

観光型Maasに対する本市の認識は

問 伊豆半島と県中部で実施される観光型Maasの実証実験第三段階では、交通機関や観光施設などのデジタルチケットを扱うサイトのサービスを拡充して、利用交通機関の範囲を拡大するほか、交通機関のフリーパスや観光施設のデジタルパスの種類を増やし、観光客の利便性を向上させる内容となっており、有効な手法であると考えますが、観光型Maasに対する本市の認識と今後の取組は。

答 産業振興部長／観光型Maasは、交通機関や観光施設などの予約

や支払いをスマートフォンで決済することで、シームレスな移動が可能となるIoTを活用したシステムであり、観光客の利便性の向上が図られる効果が期待される。また、一般のコロナ禍の状況において、スマートフォン画面を提示するデジタルフリーパスの機能は、対人接触を最小限に抑えることや、観光施設等における混雑状況の配信を通じて、密を避ける行動を促す効果も期待されること認識しており、今後の取組については、他市町や交通事業者等と情報を共有し、研究していく。

尾藤 正弘 形式一括



同報無線の戸別受信機を希望する市民向けに設置する考えは

問 同報無線の戸別受信機設置について、①希望する市民向けに設置する考えは。②市民アンケートを実施する考えは。

答 危機管理監／①戸別受信機は、地区センターや学校などの公共施設に整備することを基本としている。また、スマートフォンなどの情報機器が利用できる市民向けに、危機管理情報メールや防災アプリなどを導入しているほか、高齢者などの情報機器の利用が難しい人のために、コースTFM等との連携による災害時の情報発信や同報無線自動応答システムの

導入、自動架電システムを導入しており、様々な方法で災害情報の内容が届くように努めていることから、現時点では、市民向けの戸別受信機設置は考えていない。②市民アンケートの実施については、市民への情報伝達手段の多様化について引き続き研究していく中で、戸別受信機設置の必要性を見極める上で慎重に検討していく。



▲災害情報の発信に活用されている沼津市公式防災アプリ

水口 淳 形式一括



避難所等における換気状況の確認や診断は

問 災害時に大勢の人が訪れる避難所や帰宅困難者一時滞在施設では、感染リスクが高くなることから、センサーによる換気状況の計測や事前のシミュレーションを行うべきと考えるが、本市の認識は。

答 危機管理監／換気は感染症予防の重要な要素であり、換気状況の計測やシミュレーションは、三密が懸念される避難所等の感染リスク低減につながるものと考えている。センサーを設置して温湿度や二酸化炭素濃度などを計測することは、タイムリーに施設内の空気状況が分かり、

その状況に応じた換気ができるため、避難者が多く集まる場所に設置することで、リスク管理につながるものと認識している。また、避難所等の空気の流れのデータを収集し、気流をシミュレーションすることは、ウイルスの滞留しやすい箇所が把握できるなど、事前に感染リスクを予測して、対応を検討することにつながるものとして認識しているが、これらの取組の費用対効果など、検証すべき点も多いことから、他市の動向を注視しつつ、慎重に検討を重ね、適切な換気の実施に取り組んでいく。

深田 昇 形式一括



学校運営協議会設置の目的や効果は

問 学校運営協議会について、①設置の目的や効果は。②学校評議員会及びPTAとの関係は。

答 教育長／①いじめや不登校など、子供を取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化、多様化しており、これまで以上に、学校と地域の連携・協働体制を構築することが不可欠であることから、目指す子供の姿を地域と共有し、一体となって子供たちを育む、「地域総がかり教育」を推進するために、学校運営協議会を設置することとした。これにより、保護者や地域住民等が、当事者として

学校運営に参画し、教育課程や学力向上などの学校運営について対等な立場で協議することで、地域の力を活用した教育活動の充実や持続性のある教育の推進などが図られる。②学校運営に対する意見を保護者から伺う学校評議員会は、学校運営協議会の機能に内包されるため、廃止となる。PTAについては、保護者と教職員の協働による組織であり、学校運営を内部から支援することを目的としているため、学校運営協議会設置に伴う影響はないものと考えている。

霞 恵介 形式一括

